



太田川・三篠川合流付近



三篠川（安佐北区上深川町地先） △被災状況



三篠川（安佐北区上深川町地先） △緊急対策完成状況

# 平成30年7月豪雨

## 三篠川で戦後最大流量を記録

7月5日から7月7日にかけて、山陽地方および中国山地沿いを中心に梅雨前線が停滞したこと、広島県では局地的な大雨となりました。

三篠川流域の広島市安佐北区狩留家（かるが）雨量観測所では累加雨量432ミリを記録しました。

これは、狩留家観測所が昭和49年に観測を開始して以降の7月平均月雨量の1.6倍が約2日間で集中的に降ったこととなります。

このような局地的、集中的な豪雨により三篠川の中深川水位観測所地点で戦後最大流量を記録し、堤防の被災や落橋、浸水被害が発生しました。

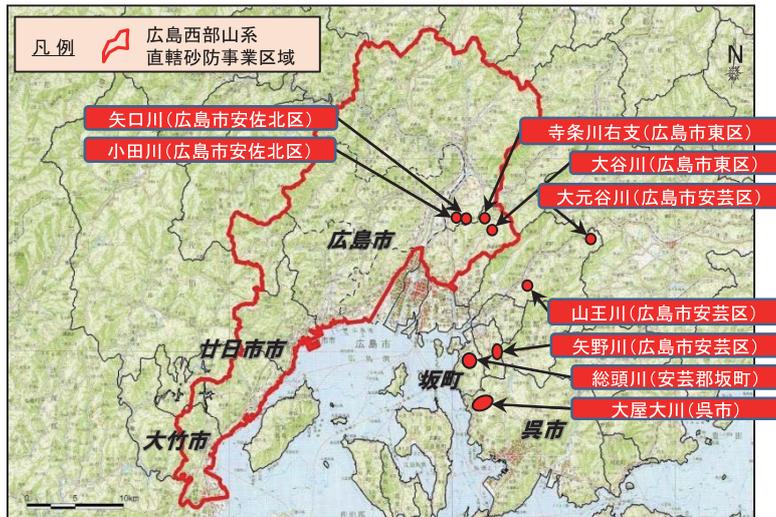
なお、堤防の緊急対策は7月17日に完了し、現在は本復旧に向けた準備を進めています。

# 平成30年7月豪雨により広島県で発生した土砂災害に対して 新たに緊急的な砂防工事を実施します

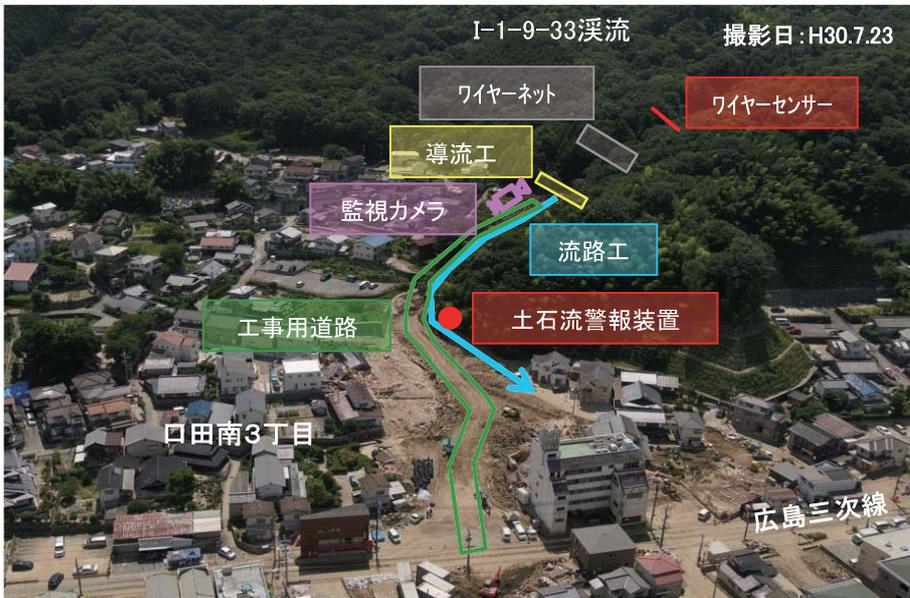
平成30年7月6日に発生した西日本豪雨により、管内4地区（広島市安佐北区口田南3丁目及び5丁目、東区馬木町及び福田1丁目）では甚大な被害を受けました。

太田川河川事務所では、渓流内に不安定な状態で堆積している土砂等の流出による二次災害を防ぐため、7月13日より応急対策工事（導流工、流路工、ワイヤーセンサー、ワイヤーネット、監視カメラ）に着手しました。

また、広島県知事からの要望を受け、8月10日より新たに管外の5地区（広島市（安芸区上瀬野町、中野東3丁目及び矢野東7丁目）、呉市天応西条3丁目ほか、坂町坂東4丁目ほか）において応急対策工事に着手するとともに、9地区において、緊急的な砂防工事を実施します。



## 応急対策工事のイメージ(広島市安佐北区口田南3丁目の事例)



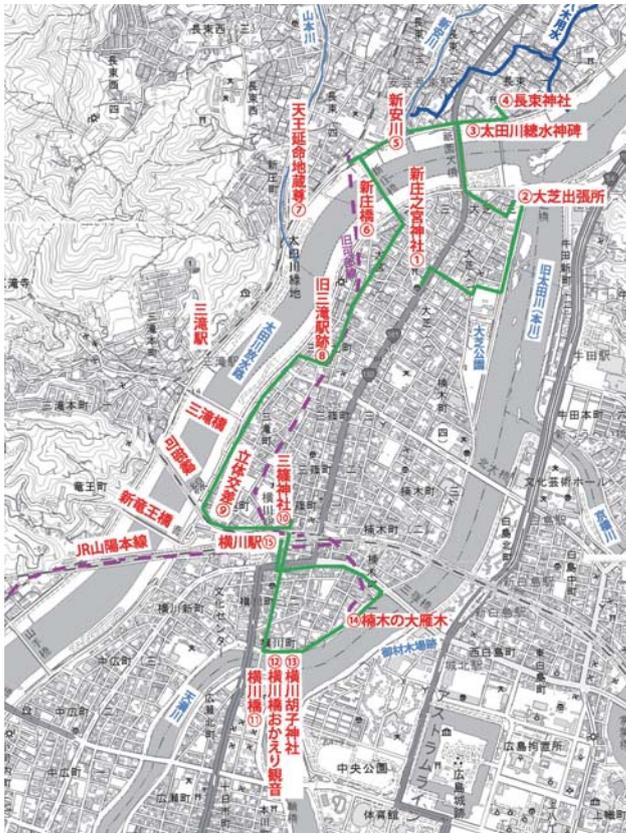
土石流警報装置

監視カメラ

流路工

# 「あるく・みる・きく太田川放水路」 を開催しました

## 太田川沿川散策ルート



6月3日(日)9:30に、太田川放水路周辺において「あるく・みる・きく太田川放水路」を開催しました。本イベントは太田川放水路完成50周年記念行事として、今日の広島市の都市基盤の礎ともいえる太田川放水路周辺を巡り、地域の皆様にその歴史や効果を理解していただくために、太田川河川事務所と広島民族学会が共催で開催しました。当日は晴天のもと、一般募集した参加者(幼稚園から70代までの男女)約40名の方々と、放水路と共に発展してきた地域の歴史を勉強しながら、散策を楽しみました。



散策の様子

# 絆花壇植栽イベントに参加しました

平成30年7月1日(日)に安佐南区緑井7丁目にて開催された絆花壇の植栽イベントに参加しました。『絆花壇』は、平成26年8月20日広島豪雨災害の犠牲者への追悼の意を表し、災害の記憶を継承していくため、区民ボランティア企業及び区内の小学校の参加により、夏の被災地を花いっぱいにする取り組みで今年で4回目を迎えます。

当日は、緑井7丁目の住民の方々に加え、河井県議会議員、海徳市議会議員、徳元太田川河川事務所長また緑井7、8丁目で行っている工事を行っている施工業者4社も参加しました。イベント当日は天気も良く参加者全員で花壇に約2,000株のマリーゴールドを植えました。



完成後



植栽の様子

## 「安芸南部土砂災害復旧対策出張所」を設置しました

平成30年7月豪雨により広島県で発生した土砂災害では、新たに9つの地区において国直轄による緊急的な砂防事業に着手することになりました。

そこで、その推進体制を確保するため、8月10日(金)、太田川河川事務所内に「安芸南部土砂災害復旧対策出張所」を設置しました。

今後、速やかな砂防堰堤等の設置に努めてまいります。



## 「平成26年8月広島土砂災害における緊急事業」 が全建賞を受賞しました

全建賞は、「建設技術の活用」や「公共事業の進め方や運用の工夫等」により、特出した成果が得られた事業や施策に贈られるもので昭和28年に一般社団法人全日本建設技術協会が創設した伝統ある賞です。

平成26年8月広島土砂災害における緊急事業は、国・県・市・住民が連携し、約3年で緊急対策工事を完成させた点が評価され、平成29年度表彰事業として選定されました。

引き続き、広島土砂災害により激甚な被害を受けた地域において、地域の安全を高めるため、国・県・市が連携し、被災地の早期復旧・復興に向け施設整備を進めてまいります。

